ども七八十錢の廉價なるべしといふ、希望者は本校内清福會宛申込まるべし

（『東京美術学校校友会月報』第二十四巻第六号）

校内に同好者の会を作り、北浦大介を世話役とし、大村西崖に支那の美術書を読んで講釈して貰うことを発案したのは矢代幸雄だった（矢代幸雄著「忘れ得ぬ人々、その一、大村西崖」『大和文華』第十四号。昭和二十九年六月）。

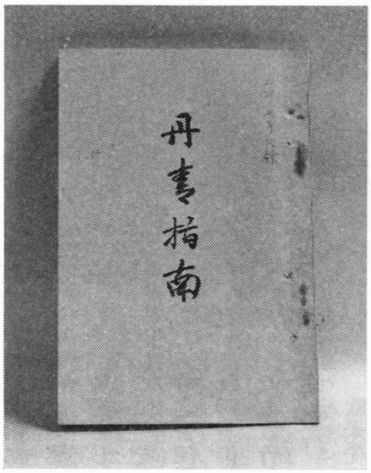
『文玩叢訳』第一『明董其昌骨董十三説』は二十頁足らずの小冊子（一八×一三㎝）で、西崖の解説が付けられており、奥付に「大正十五年一月十五日発行　定価弐拾銭　編纂兼発行者　東京美術学校内　清福会　代表者　北浦大介　印刷所　精藝社」とある。十五年五月までに第二『宋趙希鵠洞天清禄集』第三『宋王将明宣和博古図摠説』第四『印史』第五『清陳原心玉紀、劉心白玉紀補、附帰堂古玉品目』第六『硯史、米元章硯史、宋唐積歙州硯譜、無名氏端渓硯譜』が刊行された。月報の新刊案内によれば、これ以後も続々と刊行する予定で、正木直彦にも訳注を請う筈であったことがわかるが、恐らく西崖の死去によって刊行が杜絶した。

⑭　『丹青指南』

大正十五年二月発行の『東京美術学校校友会月報』第二十四巻第七号の付録として小冊子『丹青指南』が発行された。著者の市川守静は狩野探原の絵所で修業して探春と号し、特に絵所における彩色に従事していた人である。古来秘伝として伝えられていた狩野絵所の彩色法がこのように記録され、刊行された意義は大きい。刊行の経緯は次の正木直彦の序文に明らかであるが、そこには日本画の技法が粗略にされ勝ちな傾向を戒めようという意図が窺える。

序

回顧すれば大正三年の夏市川守靜と名乗る老人卒爾として余を學校に訪ひ自ら其經歴を述べて曰く　幼時より狩野繪所に在りて繪事に親みしも畫才饒ならず却て繪所に於て祕事とする傳統の彩色法を傳承し多年實驗自得する所も多ければ狩野家に於ては之を便とし繪所に於ける日常彩色の事は固より時に受命する殿堂の彩色等は專ら幹當せしめられたり　故に彩色の一事は同門中に在りても一日の長ありたり　明治維新前は全く繪事に遠かりて已に四十に餘れり　近日文運隆興し諸大家先生の畫蹟を觀るに筆墨の妙を極めたるものは往々見る所なれども彩色の一點に至りては殆ど等閑に付せらるゝものゝ如く最初より彩色法を知らざるにあらず



『丹青指南』表紙

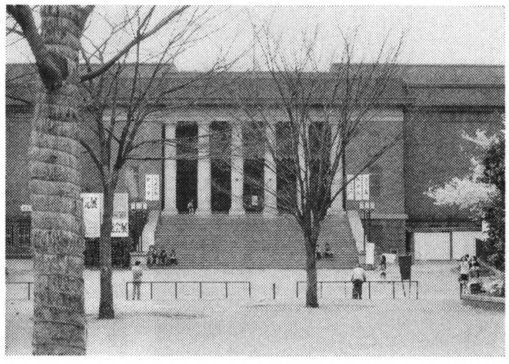
やと疑はしむるものさへあり　繪畫は不朽の盛事と云ふに斯くては筆を措て輒ち剝落するもの生ずべし　慨歎すべきことなり。余が多年傳習實驗したる狩野家祕事の彩色法も今にして傳受し置かずば暮齢幾くもなし（き）余の命と共に湮滅に歸すべしと心付きたり。學校にては彩色法の教授もあるべけれども若し許さるゝならば學生の爲に狩野繪所傳來の彩色法を實驗傳授しすべての祕事を傾倒して吝まざるべしと云ふ　余はその篤志に感じ老人に乞ふて科外に彩色法を口授實驗せしめんとて其標本及び口授稿本を準備中病を得て遂に起たず　唯標本の一部と口授稿本の自ら題して丹青指南といへる一書を留むるのみ　幸にして口授稿本は懇切丁寧を極め之を讀めは恰も口授面命を受くるの感あり。老人逝いて已に十幾年　此書は筐底に藏して人にも示さゞりしが近時繪畫の專家も小學の練磨を忽諸に付するの流弊益甚しきを歎ずること切なるが爲に今回校友會雜誌に付刊することゝなせり　是れ一には狩野家彩色法の湮滅を防ぎ一は畫家の帳中に寄與せんことを希ふに過ぎざるなり。

大正十五年一月

東京美術學校長　正木直彦

⑮ 東京府美術館開館

大正十五年三月、本校の隣接地に建設中であった東京府美術館が竣工した。明治以降、美術界の発展に伴い、上野公園で開催される展覧会の数も年々増加したが、十分な設備はなく、旧博覧会五号館や日本美術協会列品館がかろうじてその用を充たしていた。五号館は明治二十三年の第三回内国勧業博覧会の際に美術館として建てられたもので、その後改築され、竹之台陳列館と改称され、美術団体の聯盟組織である竹之台茶話会が管理した。



東京府美術館

欧米先進国に倣って十分な設備を施した国立美術館を作ろうという動きは美術界に早くからあり、大正七年には美術界代表者の建議案が議会で可決された。建設地に関して本校敷地を提供する計画が進められたことは本書第二巻（767頁）に記したとおりである。しかし、建設資金等の問題で建設は実現せず、そのため同十年、東京府で平和記念博覧会（同十一年開催）計画が持ち上がったのを機として竹之台茶話会をはじめとする美術界各方面から改めて新美術館建設促進運動が起こった。その折り、九州の炭鉱主で福岡県若松市会議長の佐藤慶太郎から百万円の寄付があり、この義挙により漸く計画が軌道に乗り、同十三年九月に着工した。

美術館は建築設計監督岡田信一郎、工事請負大林組によって約一年半を費して建設された。岡田は明治三十九年東京帝国大学工科大学建築科を卒業して翌四十年本校講師、大正十二年十月同教授（建